

第3回 JCC 開催

2011年1月13日、プロジェクト開始以来3回目となるJCCを開催しました。今回は、昨年秋就任されたプティパット副局長が初めて議長を務められました。JCCの議題は、前回のミニッツの確認、本年度のプロジェクトの実施状況の報告、来年度の活動計画、PDMの改訂でした。



プロジェクトの実施状況についてはサワニー部長がパワーポイントを使って説明しました。今年度の主な活動は参加型でMDT実施ガイドラインを作成していること、メコン地域研修や本邦研修を含み国内外でワークショップを実施したこと、さらにPeer Supportグループ手法に基づく被害者中心の社会復帰モデルの構築のための活動をFFWに委託して行っていることなどです。

来年度の活動計画は、MDT実施ガイドラインの利用、普及、修正のためのワークショップの開催、MDTケースマネージャーの育成、さらにチェンライ・パヤオ県での活動、今年度同様に日本や地域でのワークショップを開催することを説明し、参加者の承認が得られました。なお、JICAからはまだ来年度の予算が決まっていないので活動が予定通り行われないこともありうる事が告げられました。

PDMについては、まずプロジェクト実施に当たってのPDMの位置づけを確認し、その上で、現行のPDMはプロジェクトの開始前に作成されたものであり、2年間の活動が経過した現在、活動の実態に即して修正する必要があるとして提案されたものです。主な修正点は、旧版では簡単

に触れられていた被害者中心の社会復帰モデルの構築のための活動を独立の項目とすること、また県レベルの活動は3年目以降になるのでそのことを明記すること、活動と成果の関係が分かりやすいように活動を再分類することなどです。今回の提案は定例のステアリングミーティングでの決定に基づくものですが、今後は、このJCCでの討議結果を踏まえて、JICA本部およびJICAタイ事務所による検討の後、最終的にDSDW/BATWCとJICAがミニッツを作成、署名することになるという手順も説明されました。

内容にかかわる質問はなく、今後のJICA側の合意を待つことになりました。JCCのメンバーは日頃プロジェクトの活動に接していない方も多いため、この機会にPDMについて知っていただくとともに、プロジェクトの活動の枠組みを確認していただく良い機会でした。

最後に副局長は、ご自身がかつて東京のタイ大使館で働いていた時、タイ人被害者の救助に携わられた経験を話され、人身取引課題に対する深い理解と取組みへの意欲を示されました。そしてJICAおよびオブザーバー

として参加されていた日本大使館に美しいベンジャロン焼を贈られました。

